

【 専門分野 】 基礎看護学 14単位 450時間

I. 科目構築の考え方

基礎看護学は、すべての看護学の土台であり、看護実践能力を身につけるために重要な領域である。また、看護は実践の科学である。質の高い看護を提供していくためには基盤となる知識や態度に加え、原理原則に基づいた基礎技術を習得しておくことが必要不可欠である。看護に関する概念と看護が果たすべき役割・機能、そして看護を提供する場の拡大と多職種間連携・協働、専門職としての倫理について知識を深める内容として看護学概論を設定する。次に、科学的根拠と体系化された理論に基づく看護技術の基本と対象の健康レベルや状態に応じて看護を実践する能力、看護の発展をめざし探求する能力の基礎を養う内容として医療・療養環境を支える技術、生活を支える技術、看護研究、看護過程を設定する。また、専門基礎分野の治療論Ⅱや臨床薬理学などの知識を基に、他・多職種連携・協働しながら ICT やシミュレーションを用いた教育によって臨床判断を学ぶ内容として対象把握の技術、臨床看護総論演習を設定する。この科目では、多様な場であらゆる健康レベルにある看護の対象の状態を適切に判断し、その場で速やかに看護を実践できる高い看護実践能力の基礎となる臨床判断能力を養う。同時に、医療依存度の高い看護の対象が多様な場で生活を継続することを踏まえ、医療安全の内容を含む診療援助技術を設定する。基礎看護学実習では、病院において医療を受ける患者を受け持ち、看護問題の解決に向け看護過程を展開し、日常生活の援助を実践する。

II. 目的・目標

1. 目的

多様な場であらゆる健康レベルにある看護の対象を支援するための臨床判断能力、看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、それらを安全に適用する方法の基礎、看護の展開方法等を学ぶ。

2. 目標

- 1) 看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について学び、人間を統合された存在として理解できる
- 2) 保健・医療・福祉サービスの連携と看護の機能と役割について理解できる
- 3) 看護学とその周辺学問に関する知識を深め、看護学を学ぶ意義・意味を考えることができる
- 4) 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる
- 5) 倫理的な判断に基づく対象の安全・安楽をまもる基本的な知識・技術を習得できる
- 6) 看護の専門領域である日常生活を支える技術、診療援助技術を理解し、基本的な技術を習得できる
- 7) 臨床判断に必要なフィジカルアセスメントの技術を習得できる
- 8) 対象の健康問題を解決する為に、理論的知識を用いて看護過程の展開技術を習得できる
- 9) 健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を実践するために必要な臨床判断の基本的な知識・技術を習得できる
- 10) 専門職として看護研究を行うことの重要性を理解し、科学的思考や態度を習得できる

Ⅲ. 科目の構成

| 専門分野 | 科目名 (時間) | 単元 (時間) |
|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------|
| 基礎看護学 14 単位 450 時間 | 看護学概論 (1 単位 30 時間) | 看護の基本的な考え方 (2) |
| | | 職業としての看護の理解 (2) |
| | | 看護のメタパラダイム (6) |
| | | 看護の対象である人間の理解 (4) |
| | | 人間の「暮らし」の理解 (2) |
| | | 看護の役割と機能 (2) |
| | | 看護理論家と主要概念の理解 (6) |
| | | 看護サービスの管理 (4) |
| | | 看護職の資格と養成に係わる制度とキャリア開発 (2) |
| | 対象把握の技術 (1 単位 30 時間) | コミュニケーションの技術 (8) |
| | | フィジカルアセスメント (22) |
| | 医療・療養環境を 支える技術 (1 単位 30 時間) | 看護技術の概念 (2) |
| | | 環境を整える技術 (10) |
| | | 安全を守る技術 (8) |
| | | 活動と休息の援助技術 (10) |
| | 生活を支える技術Ⅰ (1 単位 30 時間) | 清潔・衣生活の援助技術 (30) |
| | 生活を支える技術Ⅱ (1 単位 30 時間) | 食事の援助技術 (12) |
| | | 排泄の援助技術 (18) |
| | 診療援助技術 (1 単位 30 時間) | 薬物療法を受ける患者の看護 (16) |
| | | 検査・処置を受ける患者の看護 (10) |
| | | 創傷処置の技術 (4) |
| | 看護過程 (1 単位 30 時間) | 看護過程 (30) |
| | 臨床看護総論演習Ⅰ (2 単位 45 時間) | 健康状態の経過に基づく看護 (4) |
| | | 主要症状を示す対象者への看護 (31) |
| | | 学習支援の技術 (10) |
| | 臨床看護総論演習Ⅱ (1 単位 30 時間) | 対象のヘルスアセスメント (10) |
| | | 対象の状態に応じた看護の実践 (14) |
| | | 看護実践後のヘルスアセスメント (6) |
| | 看護研究 (1 単位 30 時間) | 看護研究 (30) |
| | 援助技術実習 (1 単位 45 時間) | 見学実習 (7.5) |
| 生活援助技術実習 (37.5) | | |
| 看護過程実習 (2 単位 90 時間) | 看護過程実習 (90) | |

IV. 授業の概要 (シラバス)

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 看護学概論 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 前期 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|----------------|-----------------------|----------|----------|----------|-----------|------|---|------|---|------|--|------|--|------|--|------|--|
| 講師名 所属 | 村上 由紀 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験：看護師 21 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>本科目は、看護の本質、看護の定義、法律からみた看護、看護理論、看護の役割と機能など、「看護」とは何か、看護師として果たすべき役割とは何かを考え、追求していく科目である。したがって、本科目では以下の内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象である人間について哲学、生物学などの視点から理解を深める。 2. 看護理論家の主要概念とキー概念を概観し、看護の基本的な考え方の変遷について理解を深める。 3. 看護に対する基本的な考え方を 4 つの概念「人間」「環境」「健康」「看護」から考察する。 4. 保健・医療・福祉の状況を統計の観点から分析し、日本社会における健康ニーズの変遷を考察する。 5. 保健・医療・福祉の相互連携やチーム医療の必要性の観点から看護の場の多様性と看護が果たす役割と機能を理解する。 6. 専門職である看護職の責務と教育制度、キャリア開発について理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護全般の概念や規定、定義について理解できる 2. 保健・医療・福祉サービスの連携と看護の機能と役割について理解できる 3. 看護学とその周辺学問に関する知識を深め、看護学を学ぶ意義・意味を考える | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統別看護講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 2. 看護覚え書～看護であること 看護でないこと～ 現代社 3. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 医学書院 4. ケースを通してやさしく学ぶ看護理論第4版 黒田裕子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文献 | 1. 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | <p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>技術確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table> | | | | | | | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | |
| 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会と看護の変遷 2) 看護の定義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保健師助産師看護師法における規定・定義 (2) 看護職能団体による看護の定義 (3) 看護理論家にみる看護の定義 3) 世界および日本における看護の動向と展望 | | | 講義・演習 | | 村上 由紀 | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-----|--|-------|-------|
| 2 | <p>2. 職業としての看護の理解</p> <p>1) 職業としての看護の始まり</p> <p>2) 職業としての看護の確立</p> <p>3) 職業としての看護の充実と発展</p> <p>4) 職業としての新たな展開</p> | 講義 | 村上 由紀 |
| 3～5 | <p>3. 看護のメタパラダイム</p> <p>1) 人間、健康、環境、看護の考え方</p> <p>2) メタパラダイムの関係性</p> | 講義・演習 | |
| 6・7 | <p>4. 看護の対象である人間の理解</p> <p>1) 身体（からだ）と精神（こころ）</p> <p>(1) 解剖学的理解・生理学的理解（ホメオスタス）</p> <p>(2) ストレス学説とコーピング理論</p> <p>(3) 心理学的理解（患者心理）</p> <p>(4) 人間のニーズに関する理論</p> <p>(5) 危機理論</p> <p>2) 生涯成長・発達しつづける存在</p> <p>(1) 身体的発育</p> <p>(2) 心理・社会的側面における発達</p> <p>(3) ライフサイクルと発達課題</p> <p>(4) 発達危機</p> | 講義 | |
| 8 | <p>5. 人間の「暮らし」の理解</p> <p>1) 生活者としての人間</p> <p>2) 看護の対象としての家族・集団・地域</p> <p>3) 健康と生活（QOL）</p> <p>4) 国民の健康状態</p> <p>5) 療養の場の選択</p> | | |
| 9 | <p>6. 看護の役割と機能</p> <p>1) ケアの本質</p> <p>(1) ケアとは</p> <p>(2) 看護におけるケア</p> <p>2) 看護の質の保証に必要な要件</p> <p>3) 看護の役割と機能の拡大</p> <p>4) 看護の継続性と連携</p> <p>(1) 多職種との連携、継続的関わり</p> <p>(2) 在宅療養を支える継続的関わり</p> | | |

| | | | |
|-------------------|--|---------------|------------------------|
| <p>10～ 12</p> | <p>7. 看護理論家と主要概念の理解</p> <p>①ヴァージニア・ヘンダーソン ②アーネスティン・ウイーデンバック ③ヒルデガード・E・ペプロウ ④アイダ＝ジーン・オーランド ⑤ジョイス・トラベルビー ⑦ドロセア・オレム ⑧シスター・カリスト・ロイ</p> <p>※演習課題 「主要な看護理論家の看護概念とキー概念の理解」</p> | <p>講義・演習</p> | |
| <p>13・ 14</p> | <p>8. 看護サービスの管理</p> <p>1) 看護サービスと看護職者にかかわる法制度 2) 看護政策 3) 看護サービスと経済の仕組み (1) 医療保険制度 (2) 診療報酬 4) 適切な人員配置と看護サービスの評価 5) 看護管理システム 6) 看護と組織 7) リーダーシップとフォロワーシップ 8) 人的資源の管理 9) 医療の質の保証</p> | <p>講義</p> | <p>村上 由紀</p> |
| <p>15</p> | <p>9. 看護職の資格と養成に係わる制度とキャリア開発</p> <p>1) 看護師の資格と法的制度 2) 看護職の養成制度（看護基礎教育）と継続教育 3) 看護職の専門性とキャリア開発 4) キャリア開発と看護研究</p> | | |
| | <p>終講試験（筆記試験）</p> | <p>試験（評価）</p> | <p>単位認定者 村上 由紀</p> |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 対象把握の技術 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 前期 |
|-----------------|--|----------------|-------------------------|----------|----------|----------|-----------|
| 講師名 所 属 | 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年 東垂水 朋子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 15 年 | | | | | | |
| 授業概要 | 1. 看護技術の概念：看護技術を適切に実践するために、看護技術の特徴や基本原則について学ぶ。 2. コミュニケーションの技術：ロールプレイを取り入れながら、看護におけるコミュニケーション技術について学ぶ。 3. フィジカルアセスメント：看護の対象である人間の身体状況に対する判断を行うことの意義とバイタルサイン測定の方法、身体計測、呼吸、循環、腹部のアセスメントの方法について講義・演習を通して学ぶ。 4. 看護記録・報告：看護記録と報告の意義・目的を理解し、根拠に基づいた正確な記録・報告ができる基礎能力を学ぶ。 | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 看護技術の概念について理解できる 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる 3. 看護の対象である人間の身体状況に対する判断を行うことの意義と方法を理解できる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 2. 基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 2. フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 3. 看護 形態機能学 日本看護協会出版会 | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | ○ | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 1. コミュニケーションの技術 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | 1. コミュニケーションの技術 1) コミュニケーションの意義と目的 ・看護・医療におけるコミュニケーション 2) コミュニケーションの要素とプロセス | | | 講義・演習 | | 池ヶ谷 知美 | |
| 2 | 3) 関係構築のためのコミュニケーション (1) 接近的コミュニケーションにおける基本的態度 (2) 接近的行動と非接近的行動 | | | | | | |
| 3・4 | 4) 効果的なコミュニケーションの実際 (1) 傾聴、情報収集、説明の技術 | | | 演習 | | | |

| | | | |
|----------------|--|--------|--------|
| | (2)アサーティブネス (3)プロセスレコード（自己理解と他者理解） | | |
| 2. フィジカルアセスメント | | | |
| 5 | 1. フィジカルアセスメント 1)ヘルスアセスメントとは 2)看護におけるフィジカルアセスメントの意義 3)アセスメントの手段 | 講義 | 東垂水 朋子 |
| 6～9 | 4)身体計測とその介助 5)バイタルサインの測定 | 演習 | |
| 10・11 | 6)フィジカルアセスメント演習 (1)呼吸器系 (2)循環器系 | | |
| 12 | (3)消化器系 | | |
| 13 | (4)運動器 (5)感覚器系 | | |
| 14・15 | 2. 看護記録・報告 | | |
| | 終講試験 | 試験（評価） | |
| | 技術確認：バイタルサイン測定 | 技術確認 | 東垂水 朋子 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 医療・療養環境を支える技術 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 前期 |
|-------------|---|--|-------------------------------|---|----------|----------|-----------|
| 講師名 所 属 | 山田 祐子 上野 敏幸 大坪 香織 橋本 沙樹 | 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 | 教員 教員 教員 教員 | 実務経験：看護師 16 年 実務経験：看護師 7 年 実務経験：看護師 19 年 実務経験：看護師 12 年 | | | |
| 授業概要 | 看護学の土台となる基礎的知識であり、専門分野に共通する学習内容の一つである。DVD・動画教材を活用しながら看護の初学者である学生が理解できるように教授する。各単元における授業概要は以下の通りである。 1. 環境を整える技術：患者を取り巻く環境を理解し、療養環境を整えるための基本的な知識と技術を教授する。 2. 安全を守る技術：医療・療養の場における患者の安全を守るための基本的な知識・技術を教授する。 3. 活動と休息の援助技術：人間工学における学習を踏まえて、人間にとって活動と休息の意義と体位・移動動作の援助技術、休息、睡眠への援助技術について教授する。 | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 患者を取り巻く環境を理解し、療養環境を整える技術を習得できる 2. 医療・療養における患者の安全をまもる基本的な知識・技術を習得できる 3. 活動・休息の意義を理解し、基本的な技術を習得できる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 3. 基礎・臨床看護技術 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 適宜紹介する | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | ○ | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 1. 看護技術の概念 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | 1. 看護技術の概念 1) 看護技術の特徴 2) 看護技術を適切に実践するための要素 3) 看護技術の基本的原則 4) ケアリング | | | 講義 | | 山田 祐子 | |
| 2. 環境を整える技術 | | | | | | | |
| 2 | 1. 環境とは (内部環境と外部環境) 2. 看護における環境とは 3. 療養環境 1) 病室内気候 (湿度・温度) 2) 音 | | | 講義・演習 | | 上野 敏幸 | |

| | 3)採光と照明 4)臭い 5)色彩 6)病棟と病床 7)個室、多床室 4.療養環境を整える意義と環境が人に与える影響 1)プライバシーの保護 2)生活環境に潜む危険 5.ベッド周囲の環境整備 1)療養環境のアセスメントと病床の整え | | |
|------------|--|---------|-------|
| 3・4 | 6.ベッドメイキング | 講義・演習 | 上野 敏幸 |
| 5・6 | 7.臥床患者のリネン交換 | | |
| 3.安全を守る技術 | | | |
| 回数 | 講義内容 | 教授・学習方法 | 担当講師 |
| 7 | 1.安全確保の基礎知識 2.誤認防止の技術 1)誤認防止の基礎知識 2)誤認防止の実際 3.転倒・転落防止の技術 1)リスクアセスメント 2)転倒・転落の危険性の高い患者への対策 | 講義・演習 | 大坪 香織 |
| 8 | 4.感染防止の技術 1)感染予防の意義 2)標準予防策（スタンダードプリコーション） 3)洗浄・消毒・滅菌 4)医療廃棄物の分類と取り扱い | | |
| 9・10 | 5.無菌操作 1)滅菌手袋の装着方法 2)滅菌物の取り扱い 滅菌包・鑷子・滅菌ガーゼ・消毒綿球 | | |
| 4.活動と休息の技術 | | | |
| 回数 | 講義内容 | 教授・学習方法 | 担当講師 |
| 11 | 1.安楽な体位を保持するための援助技術 1)ボディメカニクスについて 2)移動の種類（体位変換・床上移動・車いす・ストレッチャー） | 講義 | 橋本 沙樹 |
| 12 | 2.体位・活動の援助 1)ボディメカニクスを用いた移動動作 (1)床上移動 (2)体位変換 | 演習 | |
| 13・14 | (3)車いす・ストレッチャー移動・移送 | | |
| 15 | 3.休息・睡眠の援助 | 講義・演習 | |

| | | | |
|--|--|--------|-------|
| | <ul style="list-style-type: none"> 1) 睡眠に影響を及ぼす因子 2) 睡眠障害の種類 3) 休息・睡眠への援助 4) サーカディアンリズム 5) リラクゼーション | | |
| | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 |
| | 技術確認：臥床患者のリネン交換 | 技術確認 | 上野 敏幸 |

| | | | | | | | |
|-----------|---|----------------|----------------------------|----------|----------|----------|-----------|
| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 生活を支える技術 I 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 前期 |
| 講師名 所属 | 岩本 聡 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 12 年 | | | | | | |
| 授業概要 | 本科目では、「清潔・衣生活の援助技術」について学ぶ。身体の清潔を保つことの意義を理解し、原理原則に基づいた具体的な清潔援助技術について、演習を繰り返しながら習得していく。 | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 清潔と衣生活の意義を理解し、基本的な技術を習得できる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 2. 看護 形態機能学 日本看護協会出版会 | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | ○ | |
| | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | 1. 身体の清潔を保つことの意義 2. 身体の清潔に関する基礎知識 1) 皮膚・粘膜・毛髪の構造と機能 2) 洗浄剤の作用 3. 清潔援助の必要性和看護師の役割 | | | 講義 | | 岩本 聡 | |
| 2・3 | 4. 身体の清潔を保つための援助 1) 口腔内の清潔 (1) 口腔内の構造と機能 (2) 口腔ケアの目的と効果 (3) 口腔ケアの方法と物品の選択 (4) 義歯の種類と取り扱い | | | 講義・演習 | | | |
| 4・5 | 2) 部分浴・部分清拭 (1) 部分浴・部分清拭の目的と適応 (2) 部分浴・部分清拭の方法と注意点 (3) 爪切り (4) 手浴・足浴 | | | | | | |
| 6 | 3) 洗髪 (1) 洗髪の基礎知識 ① 頭髪の清潔を保つことの意義 ② 洗髪の目的と種類 ③ 洗髪方法の選択 ④ 洗髪の方法と注意点 | | | 講義 | | 岩本 聡 | |

| | | | |
|-------|--|--------|---------------|
| 7～9 | (2)洗髪、整容 ①ケリーパッドを使用した洗髪 ②洗髪台を使用した洗髪 ③洗髪車を使用した洗髪 | 演習 | 岩本 聡 |
| 10・11 | 5. 衣生活の意義と整容 1)整容の目的と方法 2)寝衣の種類と選択 6. 臥床患者の寝衣交換 | 講義・演習 | 岩本 聡 |
| 12 | 7. 全身の清潔を保つための援助の種類と方法 1)清拭の援助と具体的方法 | 講義・演習 | |
| 13～15 | 2)全身清拭 | 演習 | |
| | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 岩本 聡 |
| | 技術確認：①洗髪・整容 技術確認：②臥床患者の清拭・寝衣交換 | 技術確認 | |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 生活を支える技術Ⅱ 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 前期 |
|------------|---|----------------|---------------------------|---------------|----------|----------|-----------|
| 講師名 | 上野 敏幸 | 嬉野医療センター附属看護学校 | 教員 | 実務経験：看護師 7 年 | | | |
| 所属 | 橋本 沙樹 | 嬉野医療センター附属看護学校 | 教員 | 実務経験：看護師 12 年 | | | |
| 授業概要 | <p>本科目では、「食事の援助技術」「排泄の援助技術」について学ぶ。 各単元の授業概要は、以下の通りである。</p> <p>1. 食事の援助技術 形態機能学Ⅱ、栄養学で学んだ知識を想起し、人間にとっての食事の意義と基本的な食事の援助技術について教授する。</p> <p>2. 排泄の援助技術 形態機能学Ⅱで学んだ知識を想起し、人間にとっての排泄の意義と基本的な排泄の援助技術について教授する。</p> | | | | | | |
| 科目目標 | <p>1. 食事の意義を理解し、基本的な技術を習得できる</p> <p>2. 排泄の意義を理解し、基本的な技術を習得できる</p> | | | | | | |
| テキスト | <p>1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p> <p>2. 看護 形態機能学 第4版 日本看護協会出版会</p> | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | | |
| | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 1. 食事の援助技術 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | 担当講師 | | |
| 1・2 | <p>1. 食事の意義、食行動のアセスメント</p> <p>2. 食事援助の基礎知識</p> <p>1) 栄養状態のアセスメント</p> <p>2) 摂食・嚥下能力のアセスメント</p> <p>(1) 経口摂取</p> <p>(2) 非経口摂取 (経鼻・胃ろう・経腸・経静脈栄養法)</p> <p>3) 食事の種類と形態</p> <p>3. 食事の援助技術</p> <p>1) 食事に適した姿勢</p> <p>2) 食事介助の方法</p> | | | 講義 | 上野 敏幸 | | |
| 3・4 | 4. 食事摂取が困難な患者の食事の工夫 嚥下障害がある対象への援助 | | | 講義・演習 | | | |
| 5 | 5. 非経口摂取に対する援助 | | | 講義・演習 | | | |
| | 1) 経管栄養法 | | | | | | |

| | (1)経鼻経管・胃ろう・経腸栄養法 | | |
|------------|---|---------|-------|
| 6 | (2)経管栄養の管理・注意点 | 演習 | |
| 2. 排泄の援助技術 | | | |
| 回数 | 講義内容 | 教授・学習方法 | 担当講師 |
| 7 | 1. 排泄の援助 1) 排泄の援助を受ける対象の心理 2) 自然排泄を促す援助 3) 排泄援助の原則と留意点 | 講義 | 橋本 沙樹 |
| 8 | 2. 排泄の援助技術 1) トイレおよびポータブルトイレの援助 | 演習 | |
| 9・10 | 2) 便器・尿器を用いた床上排泄の援助 3) 陰部洗浄 | | |
| 11 | 4) オムツ交換の援助 | | |
| 12～14 | 5) 一時的導尿 6) 持続的導尿（膀胱留置カテーテル） | 講義・演習 | |
| 15 | 7) 摘便・浣腸 | 演習 | |
| | 終講試験 | 試験（評価） | |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 診療援助技術 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 2 年 前期 |
|------------------|--|----------------|------------------------|---------------|----------|----------|-----------|
| 講師名 | 岩本 聡 | 嬉野医療センター附属看護学校 | 教員 | 実務経験:看護師 12 年 | | | |
| 所属 | 上野 敏幸 | 嬉野医療センター附属看護学校 | 教員 | 実務経験:看護師 7 年 | | | |
| 授業概要 | <p>本科目では、「薬物療法を受ける患者の看護」「検査・処置を受ける患者の看護」「創傷処置の技術」について学ぶ。</p> <p>各単元の授業概要は、以下の通りである。</p> <p>1. 薬物療法を受ける患者の看護 薬物療法を受ける対象について理解できるよう教授する。与薬に関する基礎知識について、グループワークを取り入れながら授業を進める。</p> <p>2. 検査・処置を受ける患者の看護 検査・処置を受ける対象の不安や苦痛への援助ならびに生体管理のために必要な知識・技術を教授する。</p> <p>3. 創傷処置の技術 形態機能学Ⅱで学んだ知識を想起し、創傷管理の意義と基本的な創傷処置の技術について教授する。</p> | | | | | | |
| 科目目標 | <p>1. 薬物療法を受ける対象を理解し、基本的な援助技術を習得できる</p> <p>2. 検査や検査に伴う処置を受ける対象を理解し、基本的な援助技術を習得できる</p> | | | | | | |
| テキスト | <p>1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>3. 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>1. 検査値ガイドブック サイオ出版</p> <p>2. 看護六法 看護行政研究会</p> <p>3. 「新たな看護のあり方に関する検討会」中間まとめ 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/09/s0906-4.htm</p> | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | ○ | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 1. 薬物療法を受ける患者の看護 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | <p>1. 薬物療法の目的</p> <p>2. 薬物療法における看護の役割と機能</p> <p>3. 薬物療法を受ける患者の心理</p> <p>4. 与薬に関する基礎知識</p> | | | 講義 | | 上野 敏幸 | |
| 2 | <p>5. 経口与薬・口腔内与薬時の注意点</p> <p>6. 直腸内与薬時の注意点</p> <p>7. 点眼・点入・点鼻時の注意点</p> <p>8. 経皮的与薬時の注意点</p> | | | 講義・演習 | | | |

| 3 | 9. 注射時の援助と方法 1) 注射の問題点 2) 吸収速度と持続時間 3) 注射器・注射針、注射薬（アンプル・バイアル）の取り扱い 4) 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射 | 講義 | 上野 敏幸 |
|-------------------|---|---------|-------|
| 4・5 | 5) 筋肉内注射 | 演習 | |
| 6・7 | 6) 静脈内注射 7) 点滴静脈内注射 | 講義・演習 | |
| 8 | 8) 輸血を受ける患者の看護 | | |
| 2. 検査・処置を受ける患者の看護 | | | |
| 回数 | 講義内容 | 教授・学習方法 | 担当講師 |
| 9 | 1. 検体検査 1) 血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖検査） 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 2. 生体情報のモニタリング 1) 心電図モニター 2) SpO ₂ モニター | 講義・演習 | 岩本 聡 |
| 10・11 | 3. 検体検査採取時の看護技術 1) 血液検査（静脈血採血）援助の実際 ホルダー採血（真空採血） | | |
| 12・13 | 4. 検査・処置の看護 1) 検査・処置の目的 2) 検査・処置における看護師の役割 3) 検査時の看護 (1) 放射線を使った検査（X線検査・CT・MRI） (2) 内視鏡検査 (3) 超音波検査 (4) 生理検査（心電図検査・肺機能検査） (5) 核医学検査 4) 検査・処置時の看護 (1) 胸腔穿刺 (2) 腹腔穿刺 (3) 腰椎穿刺 (4) 骨髄穿刺 | 講義 | |
| 14 | 1. 創傷処置における基礎的知識 1) 創の治癒過程 | 講義・演習 | |

| | | | |
|----|--|--------|-------|
| | 2) 創傷治癒のための環境づくり 3) 創傷処置の目的、方法、管理 4) 創傷処置の実際（洗浄・消毒・ドレッシング） | | |
| 15 | 2. 包帯法 1) テープによる皮膚障害 2) 援助に必要な基礎知識 3) 包帯法（巻軸帯・三角巾）の実際 | 講義・演習 | 岩本 聡 |
| | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 |
| | 技術確認：筋肉内注射 | 技術確認 | 上野 敏幸 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 看護過程 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 後期 |
|-----------|--|----------------|----------------------|----------|----------|----------|-----------|
| 講師名 所属 | 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 9 年 | | | | | | |
| 授業概要 | 本科目は、対象の健康問題を解決するために、理論的知識を用いて看護過程の展開技術を行う方法を学ぶ。看護過程の理解には、紙上事例を用いて実際に展開しながら学んでいく。 | | | | | | |
| 科目目標 | 対象の健康問題を解決する為に、理論的知識を用いて看護過程の展開技術を習得できる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 2. ザ・ロイ適応看護モデル 第 2 版 医学書院 3. 看護診断ハンドブック リンダ J. カルペニート 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 1. 看護過程に沿った対症看護 学研 | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | 担当講師 | | |
| 1 | 1. 看護過程とは 2. 問題解決思考とは 3. クリティカルシンキング 4. リフレクション | | | 講義 | 岩谷 望美 | | |
| 2 | 5. 実践方法を考えるためのツール 1) ロイ適応看護モデルの理解 | | | | | | |
| 3・4 | 6. 事例を用いた看護過程の展開 1) 事例の理解 (細菌性肺炎) 2) 情報収集と情報の整理 3) 情報の解釈 4) 患者に必要な援助の理解 | | | 講義・演習 | | | |
| 5・6 | 7. ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開 1) 行動のアセスメント (1) 生理的様式 | | | | | | |
| 7 | (2) 自己概念様式 (3) 役割機能様式 (4) 相互依存様式 | | | | | | |
| 8・9 | 2) 関連図 (1) 病態関連図 (2) 全体関連図 | | | | | | |

| | | | |
|-------|--------------------------|---------|----------------|
| 10・11 | 3) 刺激のアセスメント 4) 看護診断 | | 岩谷 望美 |
| 12 | 5) 看護計画の立案 | | |
| 13・14 | 6) 実践と評価 (1) 日々の実践と評価 | | |
| 15 | (2) 看護計画の評価 | | |
| | 終講試験 | 試験 (評価) | 単位認定者 岩谷 望美 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位(時間) | 臨床看護総論演習 I 2 単位 (45 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 後期 |
|------------------|---|--|----------------------------|----------------|---|----------|-----------|
| 講師名 所属 | 池ヶ谷 知美 東垂水 朋子 大坪 香織 | 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 | | 教員 教員 教員 | 実務経験:看護師 19 年 実務経験:看護師 15 年 実務経験:看護師 19 年 | | |
| 授業概要 | <p>本科目では「健康状態の経過に基づく看護」「主要症状を示す対象者への看護」「学習支援の技術」について学ぶ。</p> <p>各単元の授業概要は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康状態の経過に基づく看護：対象を健康状態の経過という視点からとらえられるよう、それぞれの経過の特徴について事例を用いながら教授する。 主要症状を示す対象者への看護：健康障害をもつ対象の代表的な症状である痛み、発熱、呼吸困難、浮腫について、それぞれの概念と看護について教授する。また、症状を緩和するための看護技術について、DVD やシミュレーション教材を用いた演習を用いながら教授する。 学習支援の技術：健康を支援する必要がある対象を理解し、健康教育をするための学習支援の実際について事例を用いながら教授する。 | | | | | | |
| 科目目標 | <ol style="list-style-type: none"> 対象を健康状態の経過という視点からとらえることができる 健康障害をもつ対象の代表的な症状とその看護について理解できる 対象の健康を支援するために必要な教育、学習支援の基本について理解できる | | | | | | |
| テキスト | <ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | エビデンスに基づく 症状別看護ケア関連図 中央法規 | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 1. 健康状態の経過に基づく看護 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | 担当講師 | | |
| 1 | 1. 急性期における看護の特徴 1) 急性期とは 2) 急性期にある患者と家族の特徴 2. 回復期における看護の特徴 1) 回復期とは 2) 回復期にある患者と家族の特徴 | | | 講義 | 池ヶ谷 知美 | | |
| 2 | 3. 慢性期における看護の特徴 1) 慢性期とは 2) 慢性期にある患者と家族の特徴 | | | | | | |

| | (1)疾患の受容プロセス (2)慢性期にある患者がたどる経過 (病みの軌跡) 4. 終末期における看護の特徴 1) 終末期とは 2) 死の受容プロセス 3) 終末期にある患者と家族の特徴 (1) トータルペイン | | |
|-------------------|--|---------|--------|
| 2. 主要症状を示す対象者への看護 | | | |
| 回数 | 講義内容 | 教授・学習方法 | 担当講師 |
| 3 | 1. 症状別看護 1) 症状に注目する理由 2) 臨床判断とは | 講義 | 東垂水 朋子 |
| 4 | 2. 症状を緩和するための看護技術 1) 冷・温罨法 (技術演習) | 講義・演習 | |
| 5・6 | 2) 酸素ボンベの取り扱いと酸素マスク法 3) 口腔内・鼻腔内吸引 (技術演習) 4) 吸入薬・ネブライザー (技術演習) | 講義・演習 | |
| 7 | 3. 発熱のある患者の看護 1) 発熱とは 2) 発熱の要因とメカニズム 3) 発熱を緩和する援助 (1) 薬剤 (2) 保温 (3) 罨法 | 講義 | |
| 8・9 | 4) 発熱のある患者の事例を用いた臨床判断 (1) アセスメント (2) 看護計画立案 (3) 看護実践・評価 | 演習 | |
| 10 | 4. 痛みのある患者の看護 1) 痛みとは 2) 痛みの種類 3) 痛みのメカニズム 4) 痛みに対する援助 | 講義・演習 | |
| 11 | 5) 様々な痛みの種類、メカニズム 6) 症状と日常生活への影響 (成り行き) 7) 痛みのある患者の事例を用いた臨床判断 (1) アセスメント (2) 看護計画立案 (3) 事例に基づいた看護の実践・評価 | 講義・演習 | |

| 12 | 5. 浮腫のある患者の看護 1) 浮腫とは、脱水とは 2) 浮腫の種類 3) 浮腫の要因とメカニズム 4) 浮腫の状態のアセスメントと緩和する援助 | 講義 | 東垂水 朋子 |
|-------------|---|---------|-----------------|
| 13 | 5) 浮腫のある患者の事例を用いた臨床判断 (1) 事例のアセスメント (2) 事例に必要な看護計画立案 | 演習 | |
| 14 | (3) 事例に基づいた看護の実践・評価 | 演習 | |
| 15 | 6. 呼吸困難のある患者の看護 1) 呼吸困難とは 2) 呼吸困難をきたす要因とメカニズム 3) 呼吸困難を緩和する援助 | 講義 | |
| 16 | 4) 呼吸困難のある患者の事例を用いた臨床判断 (1) アセスメント (2) 看護計画立案 | 演習 | |
| 17 | (3) 事例に基づいた看護の実践・評価 | | |
| 4. 学習支援の技術 | | | |
| 回数 | 講義内容 | 教授・学習方法 | 担当講師 |
| 18 | 1. 学習支援 1) 学習支援の対象者と看護の役割 2) 学習支援の基礎知識 3) 学習支援の技術 | 講義 | 大坪 香織 |
| 19 | 2. 学習支援の実際 健康指導案の作成 | 演習 | |
| 20～22 | 1) 健康指導案の演習 (1) 事例患者に必要なパンフレット作成 (2) パンフレットを用いた患者指導 (3) 発表 2) 健康指導案の演習・評価 | | |
| 23 (45分) | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 東垂水 朋子 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位（時間） | 臨床看護総論演習Ⅱ 1 単位（30 時間） | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 2 年 後期 |
|-----------|---|---------------|--------------------------|----------|----------|----------------|-----------|
| 講師名 所属 | 大坪 香織 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年 | | | | | | |
| 授業概要 | 対象把握の技術で習ったフィジカルアセスメントの技法を活用しながら対象のヘルスアセスメントを行う。また、複数の看護技術を適用しながら、対象に必要な看護援助について考え実践し対象の個性に応じた安全・安楽な看護技術の方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 科目目標 | 1. フィジカルアセスメントを基盤に必要な情報を収集しながら対象のヘルスアセスメントができる 2. 対象に応じた看護援助を考え実践することができる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 3. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 適時紹介する | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | ○ | 出席状況 | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1・2 | 1. 対象のヘルスアセスメント 事例：心不全 1) 問診 2) フィジカルイグザミネーション（視診・聴診・触診・打診など）の組み立て | | | 演習 | | 大坪 香織 | |
| 3・4 | 3) フィジカルイグザミネーションの実施 | | | | | | |
| 5 | 4) 状態アセスメント | | | | | | |
| 6・7 | 2. 対象の状態に応じた看護の実践 1) 看護の実践 (1) 症状の緩和 (2) 自己管理指導・生活指導 | | | | | | |
| 8～10 | (3) 症状増悪時の対応 | | | | | | |
| 11・12 | (4) 薬物療法とその効果 (5) 水分出納管理 | | | | | | |
| 13～15 | 3. 看護実践後のヘルスアセスメント 1) 膀胱留置カテーテルの挿入、管理 2) 尿路感染予防 | | | | | | |
| | 終講試験 | | | 試験（評価） | | 単位認定者 大坪 香織 | |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 看護研究 1 単位 (30 時間) | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 2 年 前期 | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|----------------|----------------------|----------|----------|----------|-----------|------|---|------|---|------|--|------|--|------|--|------|--|
| 講師名 所 属 | 松浦 江美 長崎大学 生命医科学域 教授 村上 由紀 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験:看護師 21 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>この科目では、看護学における研究課程を学習し、看護学領域の研究論文を理解するための基礎的知識を習得する。また、看護における研究の意義を認識し、看護理論や看護実践との関係性について考え、看護専門職に必要な研究的思考に基づき、課題を解決する過程を体験する。最終成果として、グループで行った看護研究の論文作成、発表を目指す。講義の中では、精選された文献に触れることで、適切で最新の知識を取り入れることの重要性や、研究倫理のあり方を学ぶ。</p> <p>受講前に 1 年時の科目「情報科学・演習」において履修している基礎的な統計処理や情報処理に関する復習をしておくこと、および研究課題を追求するために既習学習内容を駆使して積極的に学ぶ姿勢が求められる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職として看護研究を行うことの重要性を理解し、科学的思考を習得できる 2. 既存の知識や理論を活用するプロセスを理解できる | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | <p>講義・演習に必要な資料等は講義時に配布する。</p> <p>※量的研究の演習では、1 年次履修科目「情報科学・演習」の統計に関する資料を参考にすることで、量的研究の理解が深まる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文献 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 2. 初学者のための質的研究 26 の教え 医学書院 3. 看護研究 Step by Step 医学書院 4. 看護研究(第 1 版) 医学書院 5. 看護研究 原理と方法 医学書院 6. 質的研究と記述の厚み—M - GTA・事例・エスノグラフィー (グラウンデッド・セオリー・アプローチ) 弘文堂 7. 医学中央雑誌 サーチエンジン | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | <p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 15%;">技術確認</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table> | | | | | | | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | |
| 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義 2. 問題解決と研究の相違 3. 看護実践のなかから生まれる研究疑問 4. リサーチクエスションの明確化 | | | 講義 | | 村上 由紀 | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 看護研究のプロセス <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究の設計と方法の選択 2) 看護における研究デザインの多様性 3) 研究の問いと研究デザイン | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|-------|--|-------|-------|--------------|
| 3 | 6. 看護研究における倫理的な問題とその対応 1) 研究における倫理的配慮の原則 2) 研究依頼書と同意書に関する考え方・方法 3) 特別な配慮が必要な場合の対応 | 講義 | 村上 由紀 | |
| 4 | 7. 文献検索と文献検討 1) 文献検索と文献検討の必要性 2) 一次文献と二次文献 | 講義 | 松浦 江美 | |
| 5 | 7. 文献検索と文献検討 3) 文献検索の実際(演習) | 演習 | | |
| 6 | 8. 看護研究のクリティーク 1) 研究のクリティークの目的 2) 研究論文に対するクリティーク (量的研究、質的研究)(演習) | 講義・演習 | | |
| 7 | 9. 研究計画書 1) 研究計画書の意義 2) 研究計画書の作成 研究テーマ、研究しようとする問題の背景、研究動機、研究目的、研究の意義、研究方法 | 講義 | | |
| 8 | 10. 量的データ収集方法と分析 1) 分析のためのデータ処理と入力 2) 統計学的分析 (1) 記述統計量 (2) 母集団と標本 (3) 推測統計量 | | | |
| 9 | 3) 質問紙によるデータ収集 4) 質問紙の作成 (質問紙を開発する場合、開発しない場合の手続き) | | | |
| 10 | 11. 質的データ収集方法と分析 1) 質的研究におけるデータ収集 (1) 面接(インタビュー) (2) 参加観察法 | | | |
| 11・12 | 12. 研究計画書の作成 13. 研究の取り組み | 演習 | | 村上 由紀 他教員 |
| 13 | 14. 研究論文のまとめ方 1) 論文の全体構成 2) 結果、考察のまとめ方 3) プレゼンテーション | 講義 | | 村上 由紀 |

| | | | |
|----|-------------|---------|----------------|
| 14 | 15. 研究論文の作成 | 演習 | 村上 由紀 |
| 15 | 16. 研究発表 | | 松浦 江美 村上 由紀 |
| | 終講試験 | 試験 (評価) | 単位認定者 村上 由紀 |